

熊本県「震災遺構等を巡るモニターツアー」への熊本県学校支援チーム
隊員参加レポート

- 1 開催日 平成30年12月9日（日）
8時15分～17時00分
- 2 参加者 熊本県学校支援チーム隊員 10名
- 3 日程及び感想
 - ①熊本城 城彩苑 集合・受付 8時00分
 - ②熊本城 城彩苑 出発 8時15分
 - ③御船町恐竜博物館 9時10分

正面玄関のフロアに、「熊本地震御船町被災の記憶」として、映像視聴できるブースとパネルが設置され、改めて、御船町における震災被害の様子を再認識することができた。

また、語り部の方の話をうかがい、御船町の被害の大きさ、地震直後の避難所対応、そして、被災地支援の経験豊かなボランティア団体との連携による迅速・的確な対応を知ることができ、語り継ぐことの重要性を感じることができた。

- ④旧高木保育園 9時45分

保育園を横切った亀裂は、16cm程の高低差を生じさせ、断層の影響がよく分かる震災遺構であった。また、園長の話を聞き、地震が人の心に与えた影響の大きさを改めて感じるとともに、その中で、子供たちのことを第一に考えて行動された姿に感銘を受けた。震災前の耐震補強により建物の倒壊が免れたことから、耐震補強の大切さを感じた。



- ⑤東海大学阿蘇キャンパス 11時20分



正面玄関から裏庭にかけて断層が現れており、それに伴い正面玄関前の広場や建物、更に裏庭に被害が及んでいた。地面も凹凸がひどく、当時のまま残されていた。校舎両側は耐震工事が施されていたためにほとんど被害がなかったことから、耐震補強の大切さを学ぶことができた。直接、自分の目で見ることによって、当時の地震の大きさを想像することができ、被害状況を伝える貴重な資料だと感じた。

⑥阿蘇大橋跡 11時50分

橋と共に奥の法面も無残な姿が見られ、今回のツアーの中で、一番衝撃的な光景であった。今後、新たな橋が建設され、更に状況は変化するとは思いますが、語り継いでいくことの重要性を痛感した。



⑦益城町断層 14時10分

民家の庭を横断するV字の断層が保存され、地震のメカニズムと脅威を知る上で貴重な遺構であると改めて感じるとともに、湧水が地震による断層に起因するものと聞き、「自然の恵み」として断層帯をみることの大切さを知ることができた。国天然記念物布田川断層帯に指定されたということで、このことを県下に広め、防災教育や減災教育にいかしていく必要があると感じた。



⑧益城町テクノ仮設団地 15時35分

現在も800人近くの被災者が暮らしている仮設団地が最後の見学地であった。最も考えたことは、子供たちのことである。仮設団地から学校に通う子供たちは、今、どのようなことを考えているのか。いろいろな気持ちを持って学校に通っていると思うので、2年半以上経過したとはいえ、継続的な心のケア、サポートが必要であると改めて感じた。



⑨熊本市民会館前解散 17時00分

4 まとめ

子ども達が参加するケースを考えてみると、やはり事前学習が欠かせないと思う。熊本地震の概要を学んだ上で、現地の学芸員や語り部の実話を聴きながら、実際の現地を視察する事で、熊本地震について深い学びにつながると感じた。その後、事後学習として、減災・防災教育につなげる事でよりよい学びになると感じた。